

日本建築学会編

近代日本建築学
発達史

明治維新以来 106 年、日本は西欧近代技術を導入して近代化を完了し、その巨大な生産力をもって、いまや世界の大国と呼ばれるに至った。われわれ技術者は、この 106 年間、ものをつくってこればそれだけで社会から称揚されたのであった。だが、環境破壊と過剰な生産力に悩む今日、近代技術に対する疑惑の眼は強まっている。「そもそも、一つの学問が自立するには、その歴史的体系が形成されなければならず、歴史のない学問分野は、未熟とされる」(本書序文) だけでなく、われわれは、現在、明治以来 106 年の近代技術導入の総括を、生産様式との関連も含めて、迫られているのである。そのためには歴史を徹底的に追求する以外にない。

本書は、日本建築学会が総力を結集して、幕末の西欧近代建築技術の導入から今日の霞が関ビルにいたる近代日本建築学の発達のを分析し、史料を中心として記録した 2000 ページを超える大著である。これだけの集約をなし得たことは、近代日本の建築活動の充実を物語るとともに、伊東忠実に始まる建築史研究の集積があって初めて可能となったものであろう。壮観である。しかしながら、本書によって近代日本建築学の真の総決算はなされているであろうか。対象年代は幕末から始まっているが、幕末ないし近世日本の建築技術の取扱い是不十分である。近代を受容し、発展の土壌を提供した近世を見ずに近代を語ることはできないはずである。

巻頭の写真ページをはじめとして、近代の代表的建築の壮麗な写真が掲載されている。おや、と思うほど貧弱な建築があるかと思うと、それは屯田兵屋であったり、民家であったりする。これだけ豊富な建築活動がありながら、今日のわれわれ庶民の住生活の貧弱さは、なにゆえかという疑問も湧いてくる。建築家の主体性論ともいうべき「建築家の職能」編が、日本におけるアーキテクトの確立をめぐる展開されていることに、この疑問を成立させる秘密が隠されているのであろうか。それとも、問題はアーキテクトの内容にあるのであろうか。

[T.S]

(丸善刊, B5判・2198 ページ, 定価 52000 円, 昭和 47 年 10 月 20 日発行, 昭和 48 年 1 月 20 日受付)

●最近出版された本●

もよりの書店へ「書名, 出版社名, 定価」を告げてご注文下さい。

- ① 荒巻孚著: **生きている渚**, 三省堂刊, A5判・336 ページ, 定価 1000 円。理学系の著者の眼をとおしてとらえられた“なぎさ”の物語。科学エッセイとして読みやすい。
- ② 浅野信二郎著: **道路交通法とその運用**, 技術書院刊, A5判・183 ページ, 定価 850 円。
- ③ 金安公造・金泉昭共著: **交通公害**, A5判・124 ページ, 定価 750 円。上記書籍と同じ交通工学シリーズの 1 冊で、最近話題を呼んでいる交通公害のうち自動車関係にしぼって記述されたもの。
- ④ 建設省河川局監修・全国河川総合開発期成同盟会編: **日本の多目的ダム (1972)**, 山海堂刊, B5判・607 ページ, 定価 4600 円。
- ⑤ 海軍施設系技術官の記録刊行委員会編: **海軍施設技術官の記録**, 同委員会刊, A5判・772 ページ, 定価 2500 円。
- ⑥ 今野博編: **都市計画**, 森北出版刊, A5判・382 ページ, 定

価 2200 円。教科書として好適。

- ⑦ 長尚著: **基礎の条件を考慮したラーメンの解法**, 理工図書刊, A5判・233 ページ, 定価 2000 円。図表が豊富に入っており、オーソドックスではあるが、役に立つ本。
- ⑧ 堀松和夫著: **土構造物——施工とその対策——**, 理工図書刊, A5判・336 ページ, 定価 2200 円。盛土の施工, 土留の問題などがわかりやすく書かれている。
- ⑨ 吉野次郎著: **施工管理技術の基礎知識**, 日刊工業新聞社刊, A5判・201 ページ, 定価 1200 円。受験用。
- ⑩ 斎藤勝雄編: **庭園設計の実際**, 技報堂刊, B5判・214 ページ, 定価 2000 円。実用面を重視した図書。
- ⑪ 津田松苗著: **水質汚濁の生態学**, 公害対策技術研究会刊, A5判・240 ページ, 定価 2400 円。やや専門的な記述。
- ⑫ Y.A. ドルマン・N.G. ルウバック共著/原田千三訳編: **凍結工法**, 鹿島出版会刊, A5判・278 ページ, 定価 2200 円。凍結工法の実施方法について書かれている。
- ⑬ 渡部弥作者: **海岸工学**, コロナ社刊, A5判・263 ページ, 定価 1700 円。教科書として書かれたもの。

お願いと
ご案内

土木学会誌の書評・新刊紹介の欄は、土木学会誌編集委員会書評小委員会が担当し、土木工学関係図書および土木技術者が知っておくべき本、または読んでおきたい本などを中心にご案内をしております。つきましては、土木関係図書が発行されましたときは、ぜひとも下記住所気付で書評小委員会へ 2 冊 (うち、1 冊は土木図書館へ回付) 寄贈賜わりたくお願い申し上げます。

お届けいただきました図書は書評小委員会にてなるべく取計らわせていただきます。なお、「こんな本が出されている」というコメントでもかまいませんので、ご教示下さいますようお願い申し上げます。

書評小委員会 (〒160/東京都新宿区四谷 1 丁目土木学会事務局編集課気付/電 03・351・5130 番)